

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590700076		
法人名	株式会社 アキタニット		
事業所名	グループホームしゃくやく3号館		
所在地	秋田県湯沢市杉沢字森道下87-20		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成31年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が笑顔で毎日の生活を送られるよう、職員も明るく笑顔でご支援させて頂いております。ご利用者様一人ひとりに合った生活リズムを大事にし、且つ皆さんで和気あいあいと過ごすひと時を大切にしております。ご家族や地域との繋がりにおいても気軽に声を掛け合えるような雰囲気づくりに努めております。避難訓練では近隣のお宅を避難場所として提供して頂き実践しております。また町内会の一員として、町内における災害時の一時避難場所としてご協力させて頂いております。今後も皆さんから親しみを持って頂けるグループホームであるよう努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの夕涼み会には地域の方や子ども達の参加が年々増え、運営推進会議や避難訓練についても理解と協力が得られ、地域との関係を築いて相互に支え合い、地域に密着したホームづくりが進んでいます。家族が利用者と関わりを持ち続けられるよう働きかけながら家族と職員の関係構築にも努力し、利用者へのより良い支援に繋げています。また、排泄状況を丁寧にチェックしてオムツから綿パンツに移行でき、介護度の軽減に繋げて職員の自信に繋がり、家族にも感謝される優れた取り組みが行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を共有し、それを基に職員それぞれが目標を定め実践に向け取り組んでいる。ケアプランにも反映させ、ご利用者様への支援に活かしている。	年度初めに職員それぞれが目標を設定し、利用者へのより良い支援に繋げていけるよう努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には運営推進会議や避難訓練、行事などへ関心を持っていただき、年々参加者が増えてきている。普段の散歩などでは気軽に挨拶ができるようになってきている。	開設当初から地域との関係づくりに努め、その一環として夕涼み会の開催を続けて地域住民の参加が増え、ホームを緊急時の一時避難場所として提供できることを伝える等、地域との交流に積極的に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議において、ホームでの現状支援の様子や認知症に関する資料を用意し、地域の方々へお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況報告を行い、ご質問やご意見等を伺っている。運営推進会議の議事録を職員で情報共有し、サービス向上に繋げている。	ホームの取り組みに参加メンバーから理解と協力が得られ、サービスの向上に向けて情報交換、意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や運営推進会議、各種研修会を通じて協力関係維持に努めている。	運営推進会議を通じてホームの取り組みを伝え、また、行政からの研修案内には可能な限り職員が出席できるように調整しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年4月1日より「身体的拘束等の適正化のための指針」を制定し、全職員が取り組んでいる。運営推進会議に合わせ2カ月毎に「身体的拘束等適正化委員会」を開催し、身体的拘束等の有無について報告している。	日常的に職員間で対応を確認しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や外部の研修会へ参加し学んでいる。また日頃から職員間で虐待行為であるかを確認し合い防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会への参加で学ぶ機会を持つようにしているが、活用されているご利用者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学等を行って頂き、グループホームについて理解された上で入居出来るように配慮している。それを踏まえ十分に説明を行って不安解消に努め納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価時におけるアンケートの実施や、日常的に意見や要望を聞き入れており、要望等があった場合は職員間で共有し反映させるよう取り組んでいる。	利用者からは日常会話の中から要望を聞き取り、ケアに反映させています。家族とコミュニケーションを図って苦情等が言える環境づくりに努め、運営に反映させるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループミーティング以外にもユニットミーティングや日常的に意見が言える状況を築いている。各職員から出された意見等は調整会議で代表者に伝えている。	職員の意見は各会議を通じて代表に伝わる仕組みがあり、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤手当や勤務年数に応じた手当など改善されてきている。また家庭環境に応じたシフトへの配慮、研修参加に対しての配慮などに取り組んでいる。子育て中の職員については子どもを連れての出勤が出来るようにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に応じた研修へ参加できるような配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会への参加や、各種研修会等を通じて交流が図られており、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心してホームで生活が出来るように要望等を傾聴し、職員はご本人の思いを知る事に努め、情報を共有しながら良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安を抱くことが無いよう、分からない事や要望、相談にはすぐに応じることで、安心感を持って頂けるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にホームで過ごす上で、ご本人を人生の先輩として敬い、職員は色々な事を学んでいる。手伝って頂けること、出来ることを大切にし、コミュニケーションを図りながら一緒に作業などを行うようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	しゃくやく通信で定期的に状況をお伝えしている。また行事や面会、電話などの際はご家族と会話する時間を取るように心掛けています。そうした中からご本人にとって安心できる対応を見出し、互いに支えていける関係づくりに努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得たうえで、ご本人の友人や知人の方々ともご面会頂いている。また外出時も馴染みの場所へ行けるように支援している。	入居時のアセスメントや本人との会話から交友関係等を把握し、友人の訪問に繋げています。行きつけの美容院の利用や墓参り等、家族にも働きかけて関係継続の支援に努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれが得意とする分野を生かしながら共同で作業を行ったり、他ご利用者の為に裁縫やブローを行うなど、多くの関わりを持つことで良好な関係性が築けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会やお見舞いなどを通じて、繋がりが途切れないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや行動を記録することで、可能な限りご本人の意向に副った支援に繋がるように努めている。	利用者との関わりで気付いたことを共有し、アセスメントに活かしています。思いを伝えることができる利用者が多く、その思いに可能な限り応え、個々に合った生活支援ができるよう努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などはご家族やご本人より、普段の会話から聞き出すなどして把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、業務日誌やケース記録に状況を記録している。日々の状態変化についてもケース記録等で情報共有し、現状把握をしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員の気づき、日々のケース記録を参照し、毎月モニタリングをおこなっている。それをもとにご家族様からも要望を聞きケアプランを作成している。	利用者、家族の意向を踏まえ、担当職員が中心となってカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌で情報を共有し、特に変わったことなどがあった時は必ず申し送りし、その後の支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理容店に出張してもらったり、行きつけの美容院へ通ったり、スーパーへ一緒に買い物へ出掛けたりして日常生活においてリフレッシュできるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の意向に副った医療機関での受診を行っている。協力医に関しては月2回の訪問診療があり、適切な医療が受けられる環境となっている。	本人、家族の希望に沿って対応しています。協力医とは緊急時の連携が図られ、適切な支援に繋がっています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月2回訪問してくれており、気軽に相談等が出来る。状態によっては受診に繋げるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院のカンファレンスへ同席し、現状や今後の方針について確認している。医師のみならず、看護師やケースワーカーとも連携し、早期に退院できるように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望を聞きながら主治医と相談し、重度化や終末期に向けた対応を確認している。	家族からの要望もあり、状態の変化に伴ってその都度医師、家族と話し合いを重ねてホームでの看取りを経験しています。家族が利用者につき添って宿泊できるよう計らい、納得が得られる支援に努めています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の講習会に参加し、転倒骨折時の対応や意識喪失時の対処、窒息時の対応、止血方法などを学び、実践できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回火災や地震を想定した避難訓練を実施しており、地域の方も参加されている。また地域の方々には火災自動通報装置への電話番号登録や避難場所の提供などでご協力頂いている。	訓練には近隣の方も協力しています。非常食を準備している他、消防のアドバイスを受けて非常ベルの作動訓練を行い、設置場所を再検討する等、防災体制を整えています。	指定避難場所の設備を確認すると共に、特に夜間の職員の少ない時間帯の職員の不安を解消できるよう訓練の積み重ねを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を人生の先輩として尊重し、一人ひとりに合った対応を心掛け、不安や不快に感じない言葉遣いや態度、声のトーンなどを意識して接するように努めている。	利用者一人ひとりの理解を深め、その時々 の利用者の状況に合った対応を心がけてい ます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選択出来るような場面設定を心掛け、ご本人の意志によって決定できるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切にされた対応に心掛けている。外出したいと希望されるご利用者に対しても可能な限り時間を設けて対応出来るように努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院へ出掛けてパーマや毛染めをしたり、普段の洋服なども自己決定出来るように支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みや禁止食品などを把握した上でご利用者に合った食事を提供している。中には晩酌を楽しんでる方もおられる。食事の準備や片づけなどはご利用者の方々から積極的に手伝って頂き、日常的に一緒に行なっている。	利用者の力が活かせるよう食事の準備や後片付けを一緒に行っています。同じテーブルに着き、見守りの必要な方には職員がサポートしています。誕生日には好みの物を聞いて提供し、食欲の増進に繋がっています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録を参照し、水分摂取量の少ない方には好みの飲み物で対応するなど工夫している。体調などで食欲の無い方には、ご家族の了承を得て食べたい物を購入し、栄養摂取出来るように支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや場合によっては介助にて清潔保持に努めている。就寝前は週2回義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、前以て声掛けなどでトイレ誘導する事で失敗を防いでいる。夜間はポータブルトイレを使用するなど、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	排泄状況を丁寧にチェックし、オムツから綿パンツで過ごせるようになって介護度の軽減に繋がった方もおり、一人ひとりに合った支援が行われて現在オムツの使用者はなく、綿パンツのみで生活している方が多くいます。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人に合わせた形態での食事を提供し、水分も摂取してもらえるように努めている。主治医に相談し適宜便秘薬を処方して頂いている。日常的にテレビ体操やラジオ体操を行い、便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分や健康状態を把握し、間隔が空かないよう、かつご本人の希望に副えるよう努めている。異性の職員が苦手なご利用者の場合は、他の職員が介助出来るように、適宜柔軟な対応で支援している。	いつでも入浴できるように準備しており、強い拒否の方もなく、週2回は入浴できるように柔軟に対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の声掛けや、寝床で不安を感じられる方には職員が近くに居る共用スペースのソファで休養して頂くなど、適宜柔軟に対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬写真で処方時毎に確認している。疑問点があった場合はその都度薬局に確認するなど、適正な服薬支援に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業などはご利用者の力量に合わせてお手伝い頂いている。散歩や将棋、TV視聴や読書など、ご本人が自由に出来ることで気分転換へ繋げている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物へ出掛けたり、ホーム周辺の散歩を行っている。また行事や外食の際は関係先の協力を得ている。ご本人の希望をご家族へお伝えし、ご家族のご協力のもと外出されている方もいる。	少人数での外食や全員で花見ドライブを楽しんでいます。空き家になっている自宅の様子を見に行ったり、墓参り等に職員と出かけることもあり、個別の外出希望にも応じて利用者の思いが叶えられるよう努めています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、ご利用者が現金を所持している状態ではない。しかし、買い物同行時は見守りにて支払いをお願いすることがある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの要望があった際は、プライバシーを考慮し、子機を使用してお部屋でゆっくり話しが出来るように支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく毎日を過ごして頂けるよう、掃除などの環境整備に努めている。廊下には行事等での写真を掲示したり、居間には季節に応じてひな壇やクリスマスツリーを設置している。	通路、居室の出入り口は広く、浴室、トイレも介助しやすい広さがあり、ホーム内は清潔に管理されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはTVを1台とソファを3脚設置して、思い思いに過ごして頂けるような空間作りをしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用されていた物を居室内に配置することで、ご自分の部屋だと認識でき、ご安心頂いている。	入居時には本人の馴染みの物を持ってきていただくように声をかけています。持ち物の少ない方等それぞれですが、清潔な環境の中でゆっくり生活できるよう配慮した造りとなっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室等には手すりが設置されており、可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。適宜センサーを設置し、転倒予防にも努めている。		